

2007年3月3日発行

エコ・リサ通信

第58号

NPO法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会会報
発行人 高木 康夫

welcome to japan!

途上国の研修生と交歓

ようこそ 埼玉に・エコリサに!

報告者 原田 史

2月2日(金)午後、シーノ大宮で JICA の研修生7人との交流会がありました。テーマは「3R」。インド、ネパール、スリランカ、パラオ、ドミニカ共和国、ブラジル、チリからの26歳から51歳までの専門家集団で女性2人、男性5人。

エコ・リサの沿革や組織、活動状況などをプレゼンテーションの後、データバンク事業や各委員会(ごみを知ろう、グリーンコンシューマー、ライフスタイル検討、資源循環推進)の責任者がそれぞれの分野について説明。最後のグリーンコンシューマー委員会の説明の終わりに現れ出たのが、宮田事務局長のお買い物袋の着ぐるみ。これは大受けでした。一斉に写真をとる、自国でもやってみたい、カーニバルに出したいとの声まであったとか。

実物を持ち込んだダンボール堆肥も興味をもたれ、質問や感想が色々でました。具体的で、取っ付きやすく、どこの国でも応用可能と思われます。

データバンクに関しては、チリからもアクセスできるのかとの質問も出て、石川さんの答に「残念」の表情がかわいい最年少の女性(地方自治体職員)でした。

前半は静かに説明を聞く雰囲気でしたが、後半は着ぐるみ効果で盛り上がり、質問も活発になり、最後にはネパールの男性土木技術者がお国のシルクのスカーフを4枚取り出し、差し上げたいと言い出して又おおいに沸きました。

ひとつ感銘を受けたのは、ブラジルの生物学専門家が熱帯雨林保護のボランティア組織に20万人が集っていると話したことです。どこかに途上国に対する偏見があったと思わざるを得ませんでした。

大江前会長が言われたように「エコ・リサも国際的になった」のかどうかはともかく、得がたい経験になりました。



報告 エコ・リサイクル交流集会2007

タイトル:「築こう!持続可能な社会」～みんなの工夫で実現へ～



2007年2月3日(土)さいたま市民会館うらわにおいてエコ・リサイクル交流集会2007が開催されました。開会宣言の後、埼玉県環境部副部長の金子 茂様(写真右)、(社)日本青年会議所 関東地区埼玉ブロック協議会副会長の齋藤良徳様(写真左)よりご挨拶を頂きました。埼玉エコ・リサイクル連絡会から石川恵輪副会長が挨拶しました。

今年は230名の参加者を得、午前の基調講演、午後の分科会ともに皆さん熱心に聴き、質問あるいは意見交換をなしていました。

基調講演 午前の部

テーマ:「どうなる食品リサイクル」～企業では、家庭では～

基調講演は長いお話ですから、紙面の都合で要点のみ報告します。報告者 土淵昭

第1部 食品リサイクル制度の概要

講師:西野 豊秀 氏 (農林水産省総合食糧局食品産業企画課食品環境対策室 室長)

食品を大切に作る心:人間は野菜、穀物、魚、鶏、豚などいろいろな生命体を頂いて生きているのだ、ということをお願い巡らす心が必要。最近食品が乱雑に扱われている。

食品廃棄物を資源とする:食品廃棄物は、餌、肥料、バイオ燃料などの原料として活用する。飼料化を優先とする。肥料化は飼料として使った後、畜糞を肥料にする事も出来る。

廃食油の BDF(バイオ・ディーゼル・フュエル)化とバイオエタノール:廃食油を BDF に、と言う動きがあるが、日本では廃食油はあまり多くない。外国からパーム油や大豆油、菜種油などを輸入して BDF にするのは森林破壊に繋がったり、食品を使うのは好ましくない。また、トウモロコシやサトウキビのバイオ燃料化も同じ意味で好ましくない。



- **食品廃棄物の収集運搬 廃棄物法の特例:**廃棄物の収集運搬は市町村ごとに許可を必要とするが、スーパー、コンビニなど複数の市町村にまたがって店を持っている所で食品廃棄物を集めやすくする為に、特例を設けて廃棄物法の適用から外し、各市町村の許可を必要としないようにする。これにより、リサイクル率の向上を図る。

第2部 小川町での生ごみバイオガスプラント事業の概要

講師:桑原 衛 氏 (NPO 法人小川町風土活用センター 代表理事)

小川町の紹介:小川町は里山、平地、街がバランスよくある。熊谷に近く、夏は暑い。ホンダの工場が近く出来るとのことで期待が膨らんでいる。

農業と地球温暖化:最近地球温暖化と思われる影響が農業にはっきり現れてきている。

夏の暑さで米が白濁化する。秋の長雨で米の収穫時期が遅れる。害虫が増える。など。

エコ・リサイクルの意味:エコ・リサ交流集会での話だが、エコの意味はエコロジーとエコノミーの両方が大切で、両立しないと環境保護、バイオガスプラントは成り立たない。

農林業者と地域住民が作る NPO 法人ふうど:農林業者と地域住民が助け合い知恵を出し合っ
て NPO 法人ふうどは成り立っている。地産地消が地域を活性化する。経済性の追求は安ければ
よいと言うものでもない。外国製品、外注を使えばお金はよそに流れて行く。地場のもの、地
域の人に仕事をしてもらえばお金は地域でまわり、地域を活性化する。



生ごみ資源化の取組みの発端:小川町の環境基本計画を作るにあたり、
公募町民約 40 名で審議する中で、ごみ問題から生ごみ資源化の話に繋が
った。

バイオガスプラントの選定と資金繰り:バイオガスプラントはメタン
ガスと肥料の両方を使う事によりコストの低減ができるので、堆肥より安
く出来る。資金は住民の出資と環境金融基金の融資でまかなった。以下の

詳細は午後の第 3 分科会で説明する。

分科会 午後の部

第 1 分科会 テーマ:「ごみ処理状況について」

報告者 上領園子

第 1 分科会を担当した「ごみを知ろう委員会」は埼玉県内各自治体のごみ処理状況について調
査してきた。調査中にごみ問題に積極的に取り組んでいる坂戸市と北本市の状況を知り、特徴あ
る両市の取り組みと成果について発表していただき、その後当委員会が調査した結果を発表した。

「坂戸市ごみ減量の軌跡」

坂戸市環境部廃棄物資源課 副主幹 清水満夫氏

平成 16 年にごみの分別の変更をし、資源物区分変更、指定袋の導入、資源ごみはすべて資源と
いう冠をつけて市民の意識を変える工夫をした。ごみの種類別にカレンダーの収集日の色分けを
し、利用するゴミ袋の色と共通にした。マニュアル作成、ローラー作戦による地区別説明会、等々
施策を講じ市民の理解を得るようにした。それにより平成 15 年より 16 年、17 年は著しく改
善された。ごみ減量の効果は金額で一億を越え、そのほか東清掃センターが休止できランニング
コストが不要になった。その効果を市民に還元すべく、燃やせるごみの減量キロ当たり 5 円を基
金にし、保存樹木の補助、花の栽培拠点整備、剪定枝のチップ化の機械を購入し貸し出すなどし
ている。リバウンド対策や、幼稚園などで早期環境教育を行ったり、ごみに関する懇談会の開
催やごみ収集後 3 ヶ月でごみ量の速報値を発表し市民の協力を継続的に得られるようにしてい
る。

「北本市における行政と市民団体との協働作業によるごみ処理原価の算出について」

北本市市民経済部環境課 参事兼課長 丸谷義信氏

平成 16 年から 17 年にかけて総排出量は 124 トン減量、金額で 1266 万円の経費削減に
なった。平成 17 年度、市のごみ処理量・処理費の歳出の項目は燃やせるごみ、燃やせないごみ、
容器包装類、粗大ごみ、資源回収、乾電池、その他の項目に対してもそれぞれに要した経費を分
けて金額を出し、歳入は牛乳パック、廃食油、資源回収品の売上げ金、粗大ごみ処理手数料をそ
れぞれ計上している。その他不法投棄巡回委託費や不法投棄処分料等も把握し、ごみ処理原価を
詳しく分類している。このことは『北本市ごみ減量等推進市民会議』の市民と市が一緒になって
会議を進める中で、ごみ減量を進めるには、ごみの種類ごとの原価を知る必要性が言われた結果
である。この市民会議は活発に活動し、ごみ減量に関するリサイクル推進や学習会、実践や容器包
装類の適合率向上等を行っている。資源回収奨励金を各自治会に一筆あたり 5 円を還元している。

埼玉県内の市町村の廃棄物処理費について

埼玉エコ・リサイクル連絡会 竹村元宏

市民がごみ処理費用を知ることでごみ減量に立ち向かうと考え、各自治体のごみ処理原価や、ごみ処理に関する情報公開を行政がどれほど行っているかを知りたく計画を立て(財)サイサン環境保全基金から研究費をいただき調査してきた。

環境省はホームページに各自治体のごみ処理費用について公表している。それにより県内自治体の処理原価やリサイクル率について他自治体と比較検討等解析した。例えば、委託費が金額的に大きいですが、委託による経費の削減は無い、委託の仕方に問題はないのか。組合分担金については、同じ事務組合参加自治体でもトン当たり処理原価及び分担金は随分違う。資源物のアルミ缶や鉄は高く売れているが自治体差がある。何故なのかはそこに住んでいる方が調べて欲しいと思う。

ごみに関する情報公開の内容について独自処理をしている26の自治体にアンケート調査した。処理量については、各自治体はある程度把握して発表している。

処理費用についてはごみの種類ごと、資源ごみの種類毎には発表しておらず、一括金額で発表している。ごみ減量を推進するために市民も種類毎の金額、原価が出てくるように行政と協働すべきではないか。

公開とは別に各自治体はどこまでごみ処理費用を把握しているか、又資源回収の売却品収入をどのように処理しているかについても県内全てのごみ処理実施105機関にアンケートを出した。小さな市町村は一部事務組合に丸投げで処理費用について把握していない。ごみの種類毎に費用を把握している自治体は非常に少なくシステムとして出るようにはなっていない。北本市のごみ処理原価計算書から資源回収品は売上金よりはるかに多い回収費が掛かっていることやプラスチック容器品は更に再処理費用が掛かっている事などが判った。ごみが減ったけれどごみの処理費用が上った。行政が適切な資料を公開すれば、それを解析し発展させて、民間人が改善点を見つけていくことができる。

提言ごみ処理の費用を削減するには住民の協力が不可欠。地域住民は自分の出したごみの費用にもっと関心を持つべき。行政も住民も努力してごみの費用について考えごみの削減に努めるべきだろう。

質問も多く活発な質疑応答が交わされた。

第2分科会 テーマ：「ラクして省エネ快適住まい、ホップ・ステップ・ジャンプ!」

報告者 齊藤 勉

夏涼しく冬暖かい住宅環境作り

講師：グリーンチェーン推進ネットワーク 幹事 三牧省吾氏



参加者が実際に触れたり、感じたりとユニークな体感実験を通して、人の体感温度の仕組み(伝導率、輻射熱、気化熱、気流などによる影響)や放射温度が一番作用することなどを学習。《空調の設定温度》だけ気をかけての省エネ生活は、あまり効果が発揮されず、この仕組みをよく理解し工夫することで科学的な省エネ生活ができるとのこと。

また、省エネ生活をおくる上で、一戸単位での住居についての工夫や取り組みだけでなく『微気象』という自然原理をうまく利用し、樹木などを上手に活用していくことで周辺地域全体での省エネ＝グリーンチェ

ーンの取り組みについて「足し算の住まい作り」でなく「掛け算の住まい作り」という表現でその重要性の説明があり、空調設備や住居の構造物だけに頼るのではなく、自然の力を上手に利用することも大切であるとのことでした。

県庁での熱遮断性（反射率）の高い建築塗料の実験 途中報告

講師：埼玉県環境部温暖化対策課 主査 郡司高宏氏

昨年5月、温暖化対策課による都市部のヒートアイランド現象対策の一環として、赤外線域を反射する顔料を含んだ塗料による「遮熱性舗装」、保水性等検証する「歩道等に利用する技術」の2種の実験による「ヒートアイランド対策技術公開検証」の報告を頂きました。

県庁本庁舎の南側敷地の実験場に埋め込まれた測定器による温度変化データ検証と公開用に温度を表示する電光掲示板も設置しています。県庁においでの際には、是非御覧下さい、とのこと。

結果は各企業によりその効果度合いに差はあるものの一定の効果を発揮することは実証されましたが、施工コストが現状の2～3倍となる事が今後の実用展開のネックになるとのお話でした。



ゴーヤによる緑のカーテンデータによる事例報告

講師：さやま環境市民ネットワーク 本橋亮一氏



実体験の話にプラスしてその時、その時の写真も交えて頂いたことで大変具体的なイメージがわきやすいお話でした。

ゴーヤと言っても色々な種類がある事や、得られるものは遮熱性による涼しさだけでなく、採れたて収穫物を食す楽しみや花を愛でたり、その蜜に集まってくる昆虫の観察を楽しんだりと様々な楽しみ方の紹介もあり、実際の重量のデータなどからつるを這わすためのネットやアンカーなどの必要強度を想定した上での、材料費の案内もありましたのでお話を聞いて

自分でも実際にやってみようと思った人にとっては有意義な情報でした。講演後の質疑応答の時間にはアケビやゴーヤの苗の入手方法などが出されるほど参加者の「実際にやってみよう！」との気になる方が多くいらしたようでした。

G C 委員会活動報告 小中学生環境学習の特徴と効果など

グリーンコンシューマー委員会 大前万寿美

昨年夏に全労済の助成を受け、幸手と志木の環境団体のご協力を得て、小中学生を対象に買い物ゲームなど環境にやさしい配慮がなされているかの学習会を開催しました。「一人ひとりの取り組みと呼びかけがとても大切」だということを伝える事ができました。

第3分科会 テーマ：「小川町発」 地域でつくる循環の輪とネットワーク

報告者 小野 浩

講演「NPOふうどの全般的な活動」

講師：NPO法人小川町風土活用センター 代表理事 桑原 衛 氏

私たちが小川町で生ごみを使ったバイオガス液状堆肥生産設備を建設しようとした目的は、小川町給食センター等から発生する野菜残渣・給食残飯等の生ごみと、地区内の家庭からの生ごみを主原料として良質の液状堆肥を製造するものです。

小川町の農家は良質な有機肥料を必要とし 5 ているので、地元の農家の人たちが農家のた

めに必要なものを作るのだと、協働して取り組みを行ないました。

より良い運営のための仕組みのひとつとして地域通貨「ふうど」を発行し、地域の野菜や液肥と交換することができるようにもしています。

「資金調達工夫など」

講師：NPO法人小川町風土活用センター 副代表 高橋優子 氏

私たちは生ごみの資源化事業として「みんなで作り、みんなで見守る」仕組み作りを目指して、新しいバイオガス液肥発酵槽の建設に市民出資という方法をとりました。

出資者はその活動から発生する成果・利益・損失を共有することになります。



出資の条件は、契約期間：10年間、出資額：1口2万円、最大10口(20万円)で、提供していただく出資金額の目安は300万円と計画しました。結果は出資者105名、236口、472万円が集まりました。

建設資金としては約800万円を計画し、それぞれ小川町：170万円、ドウコープ：100万円の助成、市民バンクから400万円を10年間、利息1%で借入れ。

以上の資金を持って建設し現在順調に稼動を始めています。

「食品リサイクル事例集の作成経過」

講師：埼玉県農林部農産物安全課 主任 斎藤達朗 氏

外食産業や小売店から発生する生ごみは、事業系一般廃棄物として法律に基づいた処理をする必要があります。食品リサイクル法の施行により、堆肥化の取り組みをはじめ、飼料化・エネルギー化などの取り組みが進められています。しかしながら、お店の大小の差によりリサイクル率にも差があります。

今後、これを更に効率よく進めるため、いろいろな取り組みを県としても行なっていますので、是非ご相談いただきたい。県内の実施事例も増えてきていますので是非参考にさせていただきたいと思います。



総会のご案内

生ごみの有効利用と循環型農業の試み(No2)

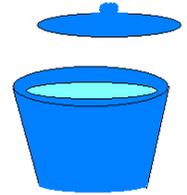
土淵 昭

3. 醗酵して肥料を作る方法

3-1. 最も環境負荷の少ないやり方

(1) EMボカシを利用する方法

外側が蓋付きのバケツになっていて、内側にザル状の容器がある、二重容器を使用し、EM菌、(Effective Micro-organisms)と言う約80種類の有効菌群を使って、生ごみを嫌気醗酵させて肥料化したものを、野菜栽培やその他の肥料にして使うと効果がある、とされています。(二重容器は余分の水分を切る為のものです。)



ただ、EM菌の信奉者の中には、一種の[信者]みたいな人が居られ、EM菌の原液をガソリンに混ぜて使うと車の燃費が上がる、とか、液を薄めて飲むと万病に効く、などと言う人も居ます。

私も原液を購入し糠に混ぜて醗酵させ、いわゆるEMボカシを作り、4年位使いました。(ボカシの作り方は省略します)

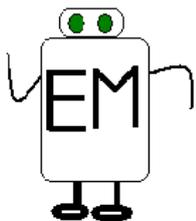
使い方で最も気をつけるのは、生ごみにボカシをまぶしてバケツに入れた後、ポリシートで表面を覆い、出来るだけ空気を遮断する事です。そうしないと雑菌が繁殖して臭くなります。勿論、バケツの蓋は普段密封して置きます。

バケツは2個用意し、1~2週間生ごみを入れてバケツが一杯になったら次のバケツに入れます。初めのバケツは1週間以上そのまま置いて嫌気醗酵を継続させてから畑に入れるよう、説明書に書いてあります。

私の経験では、畑に入れる直前でも、内容物は丁度糠みそ漬けのような状態で、柔らかくはなっていますが、殆ど形が残っています。臭いはそれほど強烈ではありませんが、すっぱい匂いがします。

この状態で畑にいれ、野菜の種を撒いたり、苗を植えると大抵失敗します。(説明書では30cmくらい離して使う、となっていますが、私の場合はそれでも殆ど失敗しました。)少なくとも1カ月から2ヶ月経って、入れた生ごみが分解して消えて見えなくなると種を撒けません。結局生ごみを分解してくれるのはEM菌ではなくて、畑の中にある土壌菌やみみずなどの小動物、ということになります。

したがって、狭い家庭菜園などで、前の作物を収穫後、直ぐに次の作物を作るための肥料には向きません。



利用方法は、果樹の周り(根元から1m以上離して)入れる(この場合は果樹が痛む事は無い)とか、落ち葉堆肥を作るときに使うと効果的です。

私の経験では、EM処理は「生ごみをあまり臭くなく数週間保管するのに都合が良い」以上の効果は認められませんでした。私の家庭菜園が家の直ぐそばにあるならば、何もEM処理しなくてもコンポスターに入れるか、落ち葉堆肥づくりに使うか、毎日直接生ごみを畑に入れて埋めてしまいます。

賛助会員のご紹介

(株)谷澤商会：富士見市 森田光一さん：東松山市 (株)清水金物：秩父市
(株)大任工務店：熊谷市 星野又右衛門商店：上尾市 (株)さしま通商：幸手市
石倉労務管理事務所：上尾市 (株)広栄：川口市(株) アルク設計事務所：上尾市
高橋茂仁税理士事務所：草加市 (株)高読：幸手市 (有)山栄エクステリア：幸手市
吉見商事(株)：熊谷市 竹並万吉さん：本庄市 浜野 豊さん：越谷市
ヒラタホーム(株)：さいたま市 (有)くらづくり本舗：川越市 (株)小島鉄工所：川口市
(株)瀬山通：深谷市 (株)栄精機製作所：川口市 (株)アイピックス：さいたま市
ケイ・アール・ベンチャー(株)：蕨市 (株)読売旅行春日部営業所：春日部市
(株)猪木製作所：草加市 (社)日本青年会議所 関東地区埼玉ブロック協議会
...順不同...2006.12.1 現在

ご支援・ご協力ありがとうございます。

エコ・リサ連絡会 入会のご案内

NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会は、幅広い環境保全型のリサイクル活動を、市民団体だけでなく、製造・流通・再生資源などの事業者、各種団体・個人が参加し、県や市町村行政とも、ネットワークを創ってすすめています。

会費(年間) 個人会員 2,000円
団体会員 3,000円
賛助会員 10,000円(1口)

お願い：エコ・リサでは、常時会員募集を行っています。一緒に活動しませんか。

* 振込み先・会費納入の際のご注意

郵便振替口座番号 00110-7-764571 加入者名 NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会
埼玉りそな銀行 大宮支店 普通 5392559

名義 特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会

郵便振替で入金される方は、お手数ですが通信欄に新規会員あるいは 会員 年
度分と明記の上、お振り込みをお願いいたします。(事務局)

〒330-0846

事務所のご案内

さいたま市大宮区大門町 3-205 新井ビル303号室
(JR大宮駅東口から徒歩8分)

FAX 048-642-6163 <http://www.townnavi.info/eco-risa>

編集後記

2007年も始まったと思ったのもつかの間、もう3月。卒業式に涙している暇もなく・・・
スタートダッシュをするどころか背中を押されっぱなしで年度末！総会準備の階段がせめてエスカレーターにならないかと思う今日この頃！
(編集担当 宮田尚美)